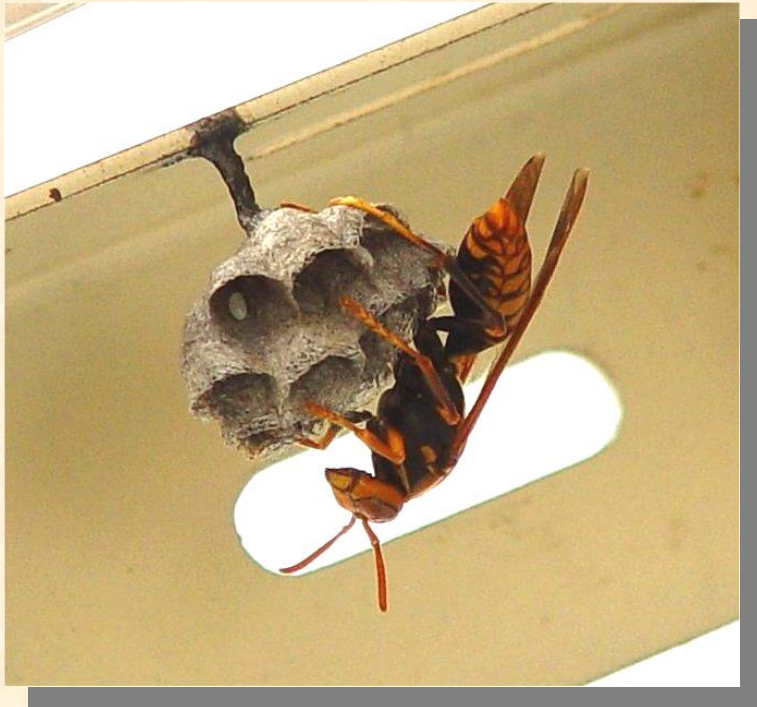
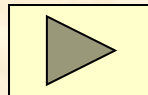


アシナガバチの巣の観察



生活衛生センター内の片隅でアシナガバチが巣を作り始めました。だんだんと大きくなるアシナガバチの巣の様子を活動期間を通して観察してみました。



4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

4月中旬～下旬

巣作りの始まり



アシナガバチは4月上旬から10月中旬にかけて活動し、最初は女王バチたった1匹で巣を作り始めます。

巣の材料は植物のせんいをかみ砕き、だ液と混ぜ合わせたものです。

小さな巣が出来ると育房の中に卵を産みつけます。
(白く小さい卵が見えます)

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

5月～6月上旬

巣作りと産卵



さらに育房を増やし卵を産みつづけます。やがて最初の卵がふ化し始めます。

女王バチが口にくわえている緑色の肉だんごはケムシなどの害虫をかみ砕き球状に固めたものです。この肉だんごはエサとして幼虫に与えられ、かわりに成虫は幼虫が口から出す液をエサとしてもらいます。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

6月 分業



最初の働きバチが誕生しました。このころから女王バチは産卵に専念するようになり、巣作りは働きバチが担当します。

働きバチは女王バチと同じメスバチですが、卵そうが発達しないので卵を産むことはなく、一生を働きバチとして生活します。

働きバチの仕事は、巣材やエサ集め、幼虫の世話、そして巣を守ることです。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

7月 幼虫の観察



クリックすると
拡大

巣を下から見ると、育房から顔をのぞかせている幼虫が見えます。成虫がエサをくれるのを待っているのでしょうか。

育房にかぶさっている白いふたはまゆで、その中にはさなぎが眠っています。成虫になる日を今か今かと待ちかまえています。

幼虫の拡大



4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

7月下旬～8月

活動最盛期



この時期になると、翌年新女王バチになるメスバチが誕生し始め、続いてオスバチも誕生します。オスバチの仕事は交尾のみで巣内ではほとんど静止しています。

巣全体のハチの数がピークを迎え、巣の活動で一番大事な時期になります。働きバチは外敵から巣を守り防衛本能が高まります。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

9月下旬～10月

活動の衰退



幼虫やさなぎ達が育った育房内はだんだんとからになっていきます。成虫は今まで幼虫からもらっていたエサが無くなり急速に活動が衰えていきます。

交尾時期がまもなく終わります。交尾を終えると新女王バチは越冬場所へ移動し、オスバチは別の場所で死に絶えます。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

11月 活動の終わり



おしまい

さなぎもすべて羽化し巢の育房内は完全にからになりました。この頃の働きバチの攻撃性はほとんどありません。最後に取り残された働きバチも役目を終え別の場所で死に絶えます。

新女王バチはおよそ半年にも及ぶ越冬生活を過ごし翌年の4月頃にまた巣作りを始めます。残された巣は1年限りで翌年は同じを巣を使うことはありません。